

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

三原市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査対象 公立小学校第6学年, 中学校第3学年

(3) 調査内容

①児童生徒に対する調査

○教科学力の調査(「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に構成)

【小学校】

・国語, 算数, 理科

【中学校】

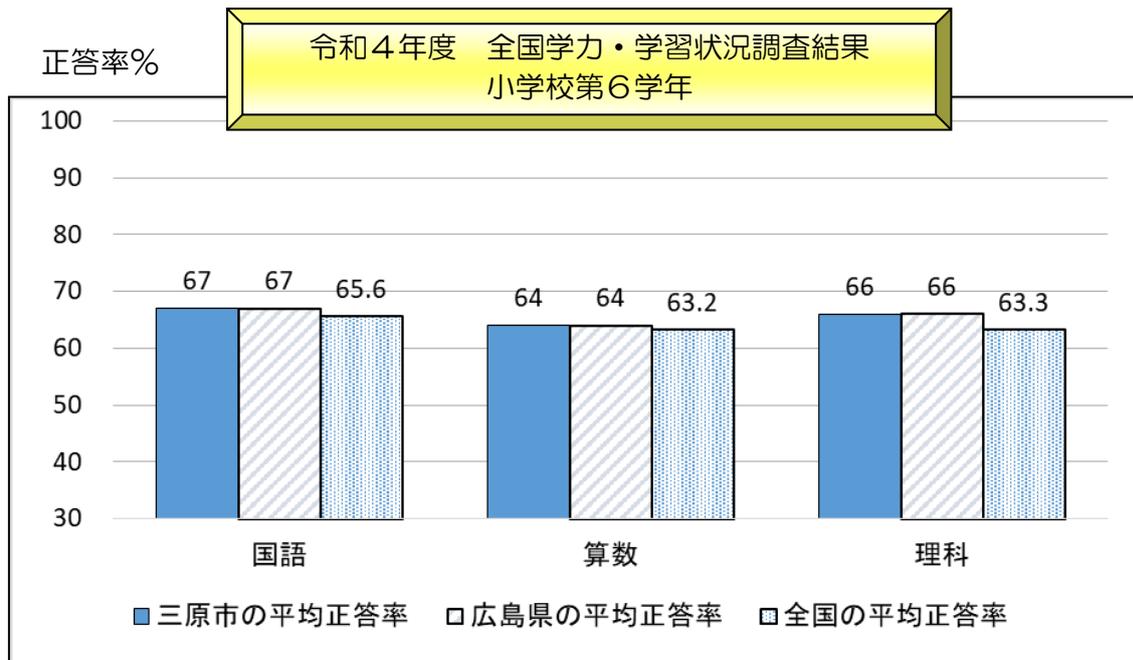
・国語, 数学, 理科

○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する調査

○指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 三原市の調査結果



【国語】

全体では、県平均と同値。全国平均より1.4%高い。話すこと・聞くこと、我が国の言語文化に関する事項の領域で県平均を上回った。書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項の領域で、昨年度と比較すると、県平均との差は1.5%以内に縮まっているが、今年度も県平均を下回っている。また、文章の内容や理解したことに対して、その意図を考えたり、条件に合わせ自分の考えを書いたりする問題で正答率が低い。言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力に課題がある。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目、観点を明確にして考えを共有する場面を設定する。互いの書いた文章を読み合う際には、観点と文章を対応させながら具体的に感想や意見を述べ合う場を設定する。感想・意見交流にとどまらず、互いのよさを自分の表現に生かすことができるよう、自分の作品を再度振り返る場を大切にする。2点目、言葉の動きに気づかせる話し合いの場面を設定する。発言の意図を考えさせるなど、言葉には話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、会話を継続させる働きがあることを実感できるように指導する。

【算数】

全体では、県平均と同値。全国平均より0.8%高い。また、数と計算、変化と関係では県平均を上回った。一方、図形、データの活用の2領域において、県平均を下回った。特に、データの活用において県平均との差が-3.5%と大きな差が見られることから、データの活用における指導に課題がある。また、3問の記述式問題のうち、2問が県平均以下。求め方や理由等を説明することに継続して課題がある。

改善策として、以下の3点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、データの活用領域において、データ活用の目的、必要感がもてる場を設定する。さらに、作成した表やグラフから資料の特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表やグラフのある部分と関連付けながら、わかりやすく説明し合う場を設定する。2点目は、図形領域において、作図の仕方を考えて説明する授業だけでなく、作図手順を示して、描ける図形を説明したり、間違った作図手順を示して、どこを修正すれば正しい図形が描けるのか、図形の性質をもとに説明したりする場を設定する。3点目は、算数科の記述式問題の種類である事実・方法・理由のうち、いずれを説明させるのかを意識して発問する。さらに児童生徒が、授業で友だちの意見を聞いて終わりにせず、意見をもとに再度自分の考えを整理して記述できるように指導する。

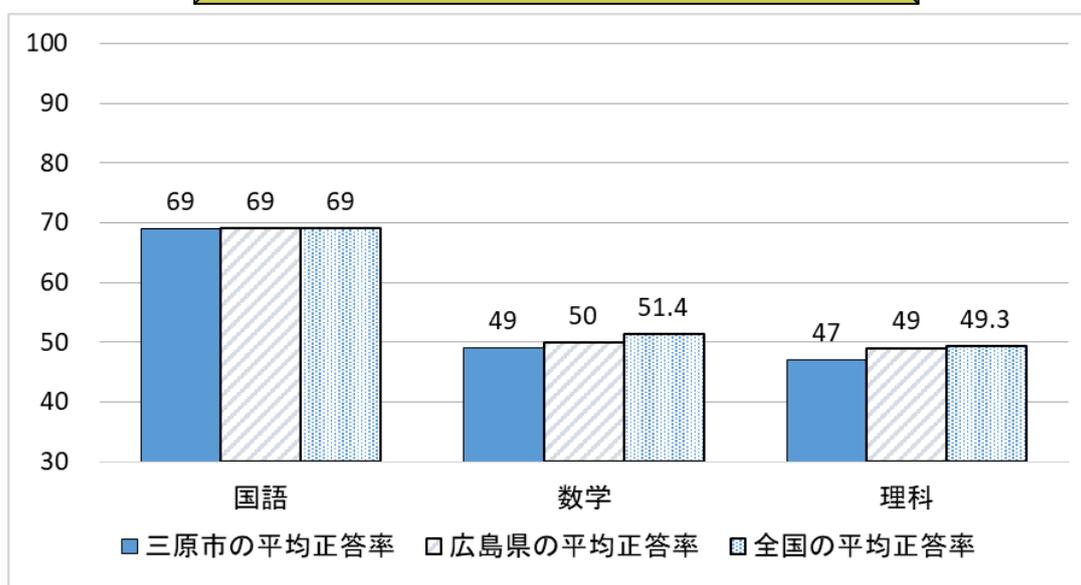
【理科】

全体では、県平均と同値。全国平均より2.7%高い。また、「粒子」を柱とする領域では県平均を上回った。一方、「エネルギー」、「生命」、「地球」の3領域において、県平均を下回った。また、正答率下位3問中、2問が記述式の問題である。実験結果をもとに考察して、自分の考えを表現することに課題がある。

改善策として、以下の2点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、問題解決に必要な実験を考え、計画する場を設定する。すべて自分たちで考えることができない場合は、実験方法を選択肢で示し、根拠をもとに選ばせる活動を大切にする。2点目は、実験結果から、問題解決にむけた考察を、自分の言葉で根拠を明確にして説明できるようにする。実験結果をもとに、自分の考えを言葉で説明する際には、事実と解釈の両方を示す必要があることを指導し、実験結果のどのデータから判断できるのか、根拠を明確しながら説明する場を設定する。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果
中学校第3学年

正答率%



【国語】

全体では、全国平均、県平均と同値である。話すこと・聞くこと、読むことの領域で、県平均を下回っている。特に、読むことにおいては、県平均を6%下回り、課題がある。また、読むことにおいて、場面の展開や、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えたり、内容を解釈したりする力に課題がある。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目、描写をもとに説明する場面を設定する。2点目、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する場面を設定する。例えば、結末に至るまでの話の展開で重要な部分を書き出し、書き出したことから結末に至るまでに必要な場面や描写について整理したことを説明させるなど、結末につながる話の展開を時系列で捉え、描写をもとに説明できるよう指導する。

国語科の全ての領域において、自分の考えを表出する場面を設定し、まずは自分の考えを書かせる、そして他者と交流し、互いの違いやよりよい考えに触れさせ、自分の考えを再度見直す場面を設定することが大切である。

さらに、学習指導要領の指導事項に示されている内容を具体的な児童生徒の姿としてイメージし、生徒は何につまずいているのか、今の考えに不足しているものは何か。適切に見取り指導する。

【数学】

全体では、全国平均より 2.4%、県平均より 1%低い。「数と式」の領域においては県平均を 1.4%上回ったが、他の3領域は県平均を下回った。特に関数領域は-4.2%と県平均との差が大きい。基礎的・基本的な知識及び技能が身につけていないこと、記述式で事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

改善策として、2点を意識して授業改善を進める。1点目は、基本的な計算問題や、用語の意味を正しく理解させるために、小テストや、単元テストなどを繰り返し実施し、できていない問題については学び直しの時間を設定することである。また、毎時間、振り返りの時間を確実に設定し、本時で学習した内容を振り返りシートなどに自分のことばでまとめさせ、いつでも確認できるようにする。

2点目は事実・方法・理由を記述する場面を授業で設定することである。説明する場面で、個人思考の時間を十分にとり、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いるかといった「用い方」について考え、説明できるようにさせる。そして、個人で考えたことを他者や全体で交流する場面、他者の説明を見てどのように考えたかを説明させる場面を充分設定した後に、再度、個人で思考する時間を設定し、不十分な表現を、より精練された表現に高めさせ、改善させる。

【理科】

全体では、県平均よりも 2.0%。全国平均より 2.3%低い。また、4領域すべてにおいて県平均を下回った。特に、「エネルギー」「生命」を柱とする領域で県平均との差が大きく、課題である。また、正答率下位3問、県差下位3問の計6問中4問が、「思考・判断・表現」の問題である。他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られた。

改善策として、以下の2点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、問題解決に必要な実験を計画するだけでなく、結果をもとに実験計画を再考する場を設定する。科学的探究活動において、結果にもとづく考察の妥当性を高めるために、実験計画の再考を繰り返すことは自然である。すべての単元で行うことは難しいが、年間を通して計画的に経験させていく。2点目は、観察や実験の結果を多面的に分析して解釈するとともに、解釈の妥当性を検討する場を設定する。観察や実験の結果を分析して解釈する際には、予想や仮説と、観察や実験の結果を比較したり、既習の知識や技能と関連付けて考えたりするなど、多面的に分析して解釈できるよう支援する。また、自他の解釈について表現し合い、その妥当性を検討できるように指導する。